資料３

# 令和4年度　第１回　部活動のあり方研究及び地域移行に関する有識者会議

# 事務局説明資料

**１　部活動のアンケート調査の結果（速報版）**

**２　本市モデル事業「桜宮スポーツクラブ」中間報告**

**３　今後の取組み**

令和４年１０月３１日
大阪市教育委員会事務局指導部　保健体育担当

# 0　はじめに



## 部活動改革の経緯

〇平成25年　　プレイヤーズファーストに基づく本市部活動指針を策定する。
〇平成30年度　部活動指導員を配置し、生徒に向き合う時間を確保し教育の充実を図る。
〇令和3年度　　スポーツ庁の「地域運動部活動推進事業」によりモデル研究「桜宮スポーツクラブ」を開始。

## 部活動の地域移行に関する提言

**＜地域移行のめざす姿・進め方＞**

〇少子化の中でも、将来にわたり我が国の子供たちがスポーツ・文化芸術に継続して親しむことができる機会を確保。
〇学校の働き方改革を推進し、学校教育の質も向上。部活動の意義の継承・発展とともに新しい価値を創出。
〇休日の運動・文化部活動から段階的に地域移行、令和5～7年度末までの3年間を改革の集中期間と設定。
〇令和8年度以降、改めて進捗状況を検証し、更に改革を進めていく。

## 本市の取組みの進め方

- 生徒・保護者・教員に対するアンケート調査により、**本市の部活動の実態を把握**するとともに、**生徒にとって望ましい部活動のあり方について検討。**
- 本市の部活動の課題検証を踏まえ**部活動指針の見直し、地域移行の具体的な進め方等を検討。**国の動向も踏まえ、**令和5年度以降の具体的な移行スケジュールを策定。**

# 1(1) 部活動に関するアンケート調査結果(速報版)



## 1 アンケート調査の概要

### ➢ 調査目的

教員の働き方改革や国における部活動の地域移行の議論を踏まえ、本市の部活動のあり方や部活動支援の検証を行うため、各校における部活動の現状、教員の認識を調査し、今後の取組みに活かしていくことを目的とする。

### ➢ 調査対象

部活動の実態や部活動に対する認識等を明らかにすることをめざし、本市の中学校126校のうちブロックや学校規模を考慮して抽出した57校の全学年生徒、保護者及び常勤の教育職員を対象に実施。

### ➢ 調査方法及び調査期間

R4.8/24～9/11を回答期間として、端末やスマートフォンを利用しWEBでの回答を受け付けた。

### ➢ 回収率

アンケート用紙の回収でなくWEB回答を採用したため回答率は低くなっているが、生徒で4千件の回答を得た大規模なアンケート調査となった。

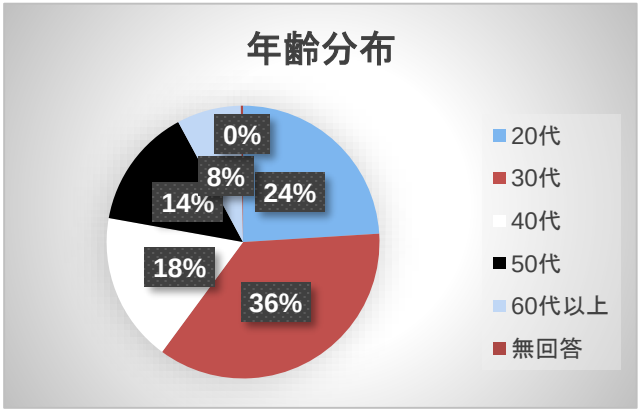
| | 生徒 | 教職員 | 保護者 |
|---|---|---|---|
| 対象者総数 | 24,321 | 1,949 | ― |
| 回答数 | 4,022 | 762 | 3,531 |
| 回答率% | 17 | 39 | ― |

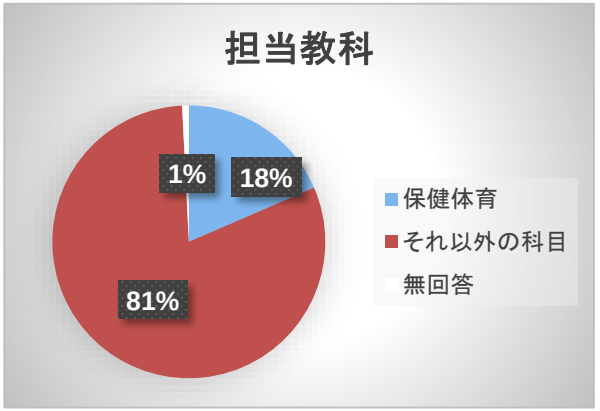
# 1(1) 部活動に関するアンケート調査結果(速報版)

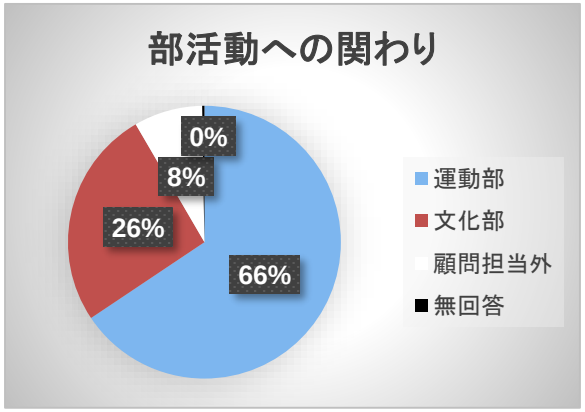


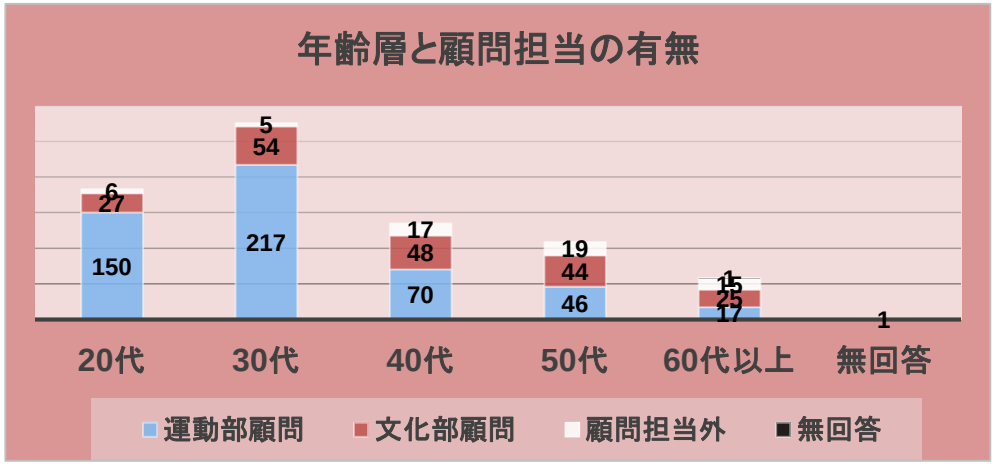
## 2 本調査回答者の属性

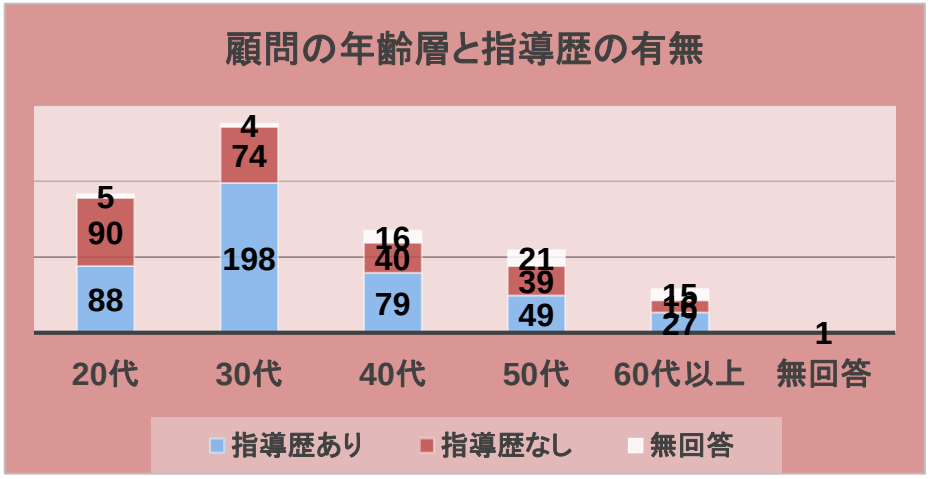
➢ **教職員** 30代を中心に幅広く回答を得た。18%の担当教科が保健体育で、全体の92%が部活動顧問を担当。比較的若い世代に運動部顧問の比率が高い。



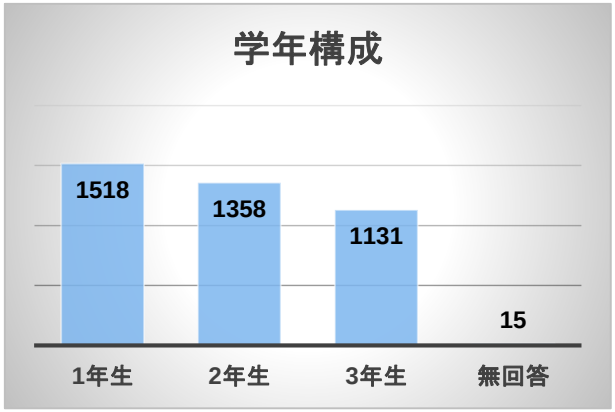



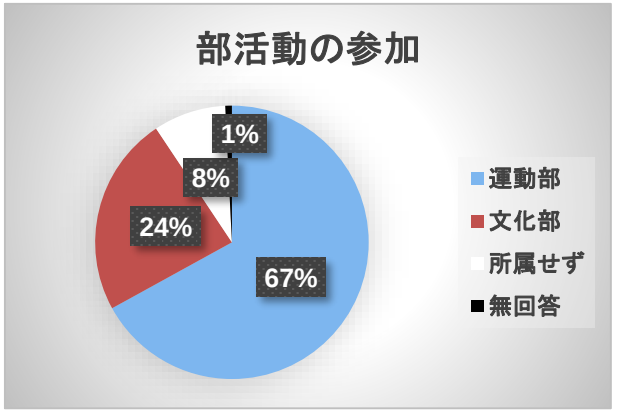



# 1(1) 部活動に関するアンケート調査結果(速報版)

## 2 本調査回答者の属性

➢ **生徒** 9割以上が部活動に所属。1～3年生で、それぞれ1,000人以上の回答を得た。

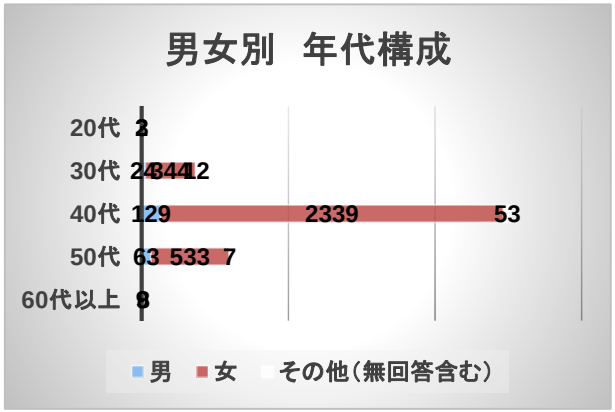


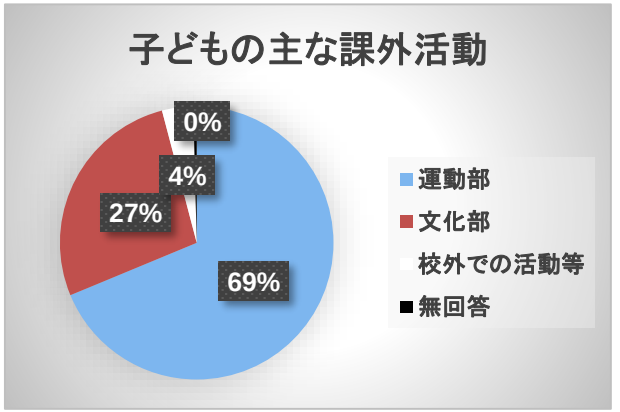




➢ **保護者**

40代を中心に回答を得た。

子どもの主な課外活動は、運動部が7割、文化部が3割弱で、部活動が9割以上を占めた。



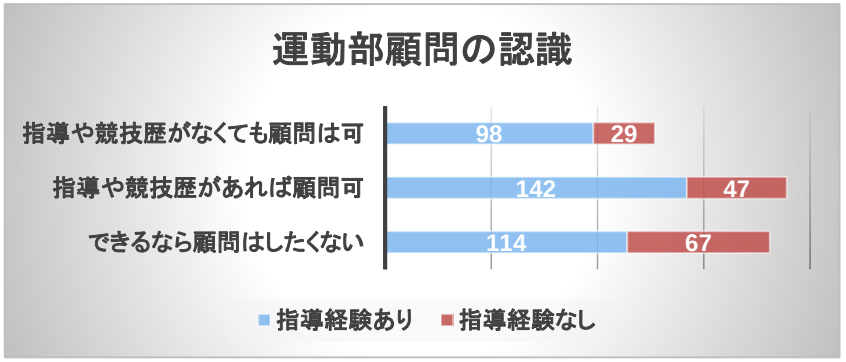



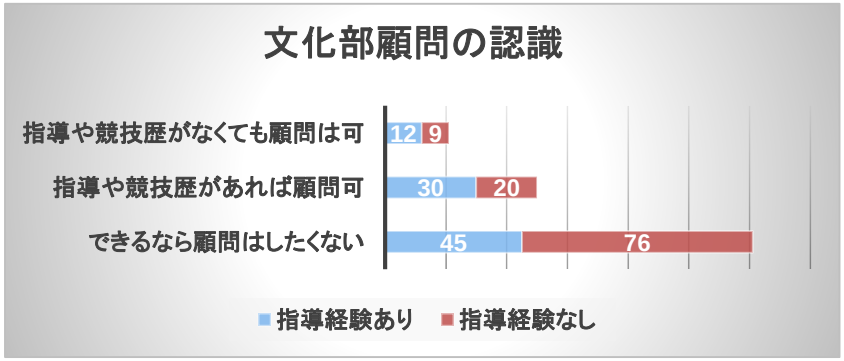
# 1(1) 部活動に関するアンケート調査結果(速報版)

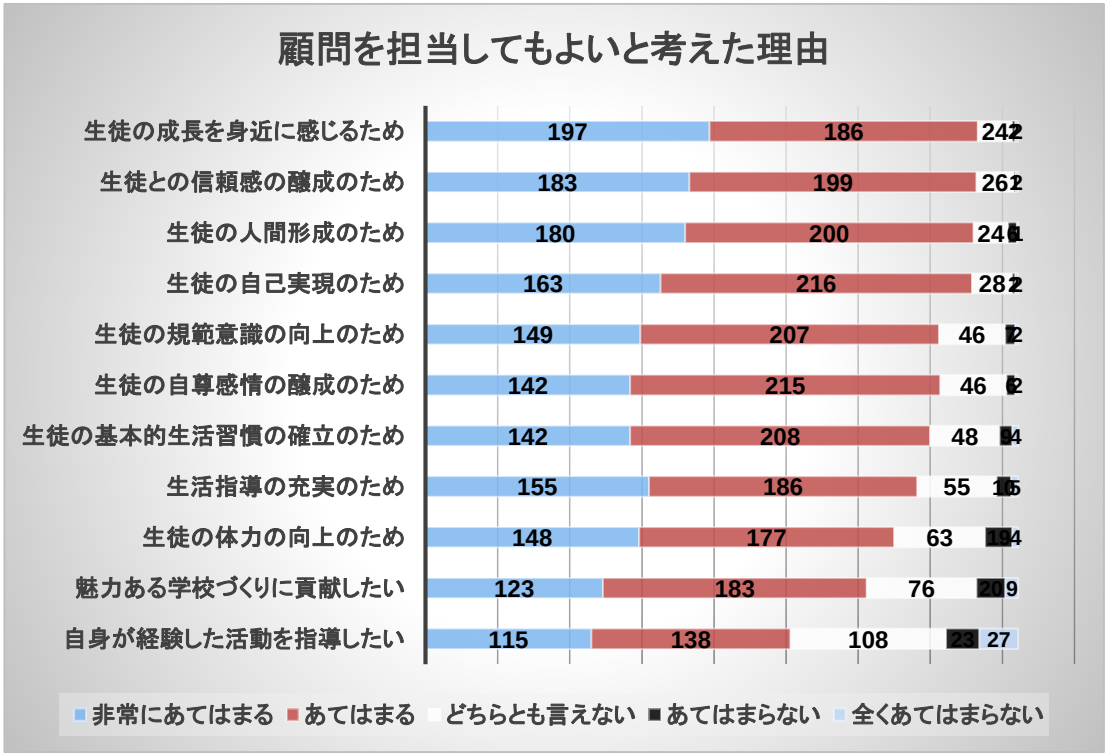
## 3 部活指導者の実態

### ➢ 顧問に対する認識

運動部では、顧問を担当したくないと回答する者が3割強、文化部ではその傾向がさらに大きく6割に及ぶ。顧問を担当する理由としては「生徒の成長を身近に感じるため」が上位で「生活指導」「学校づくり」と続く。「生徒のため、それが教員としてのやりがいにもつながる」という動機付けで顧問を請け負っている現状が見える。



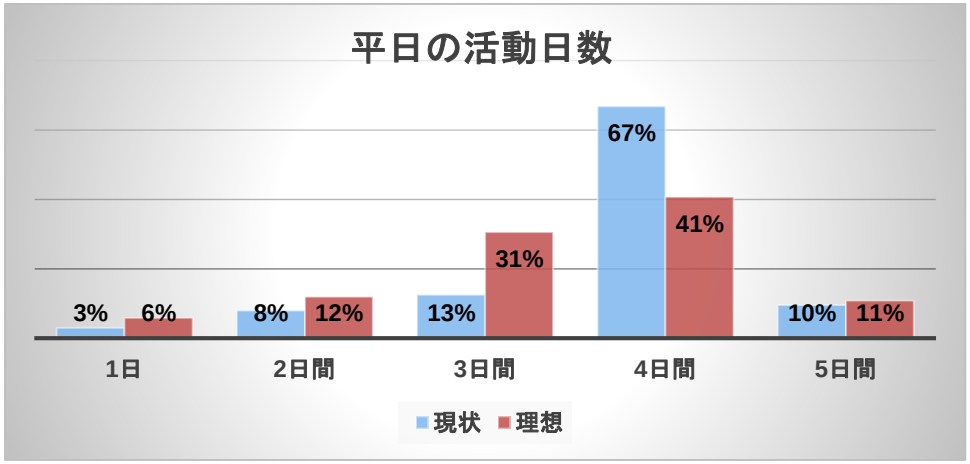



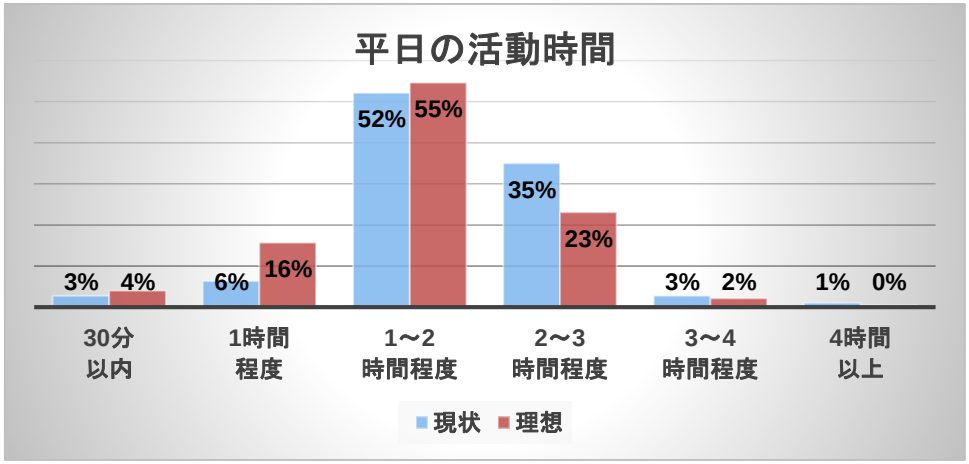
# 1(1) 部活動に関するアンケート調査結果(速報版)

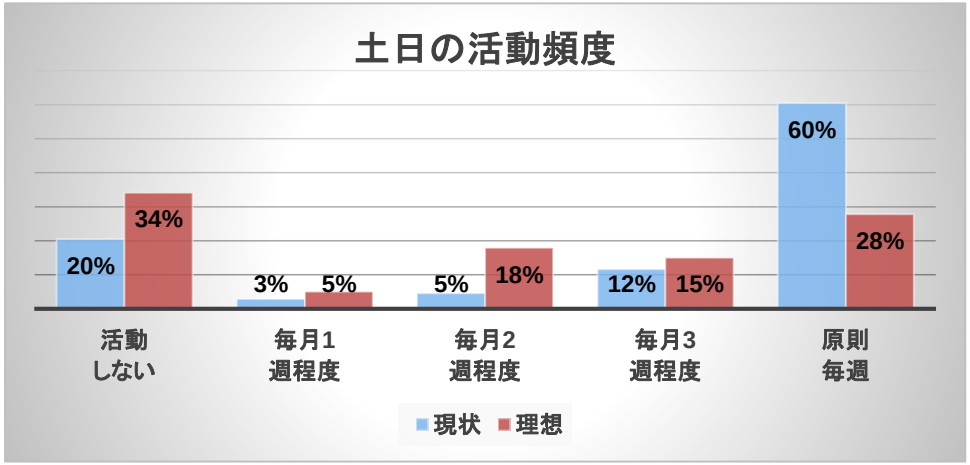
## 3 部活指導者の実態

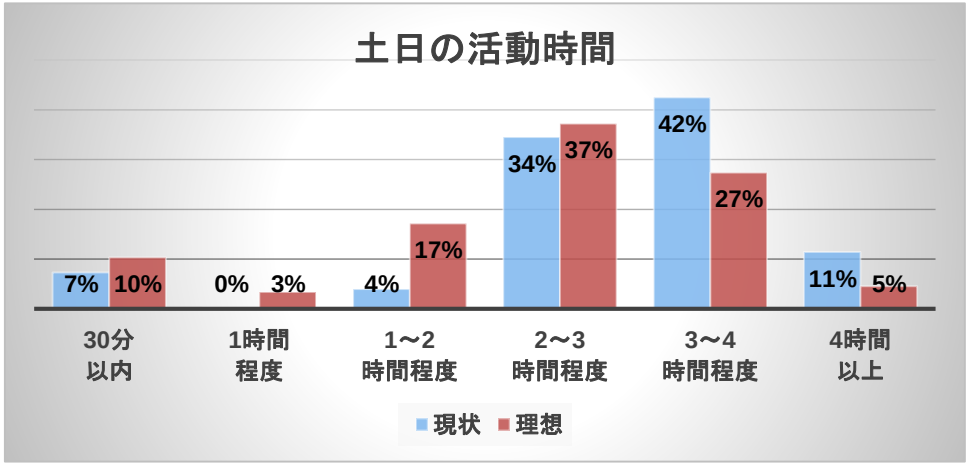
### ➢ 指導頻度の実態と理想

平日の活動は、現在の状況をちょうどよいと思う傾向、土日については、より緩やかになるよう求める傾向にある。



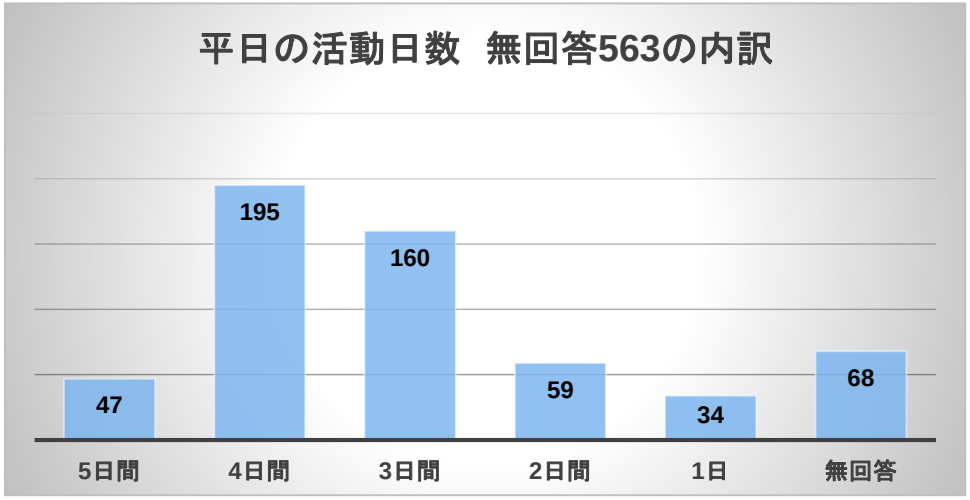
# 1(1) 部活動に関するアンケート調査結果(速報版)

## 3 部活指導者の実態

### ➢ 指導頻度の実態と理想2

平日と休日の指導について、現状に対して増加あるいは減少させたいかについてクロス分析したところ、休日については、毎週実施の頻度を減少させるほうがよいとする回答が多かった。

平日の指導については、4日間程度で適当だとする回答が多くを占め、平日の活動日数の回答がなかった層についても同様の傾向となった。




| 休日の指導 | 減少させたい | 現状維持 | 増加させたい |
|---|---|---|---|
| 毎週 | 234 | 185 | — |
| 月3週程度 | 36 | 40 | 5 |
| 月2週程度 | 11 | 17 | 3 |
| 月1週程度 | 5 | 7 | 7 |
| 原則なし | — | 129 | 9 |

| 平日の指導 | 減少させたい | 現状維持 | 増加させたい |
|---|---|---|---|
| 5日間 | 7 | 12 | — |
| 4日間 | 38 | 79 | 16 |
| 3日間 | 4 | 19 | 2 |
| 2日間 | 1 | 9 | 6 |
| 1日 | 0 | 3 | 2 |

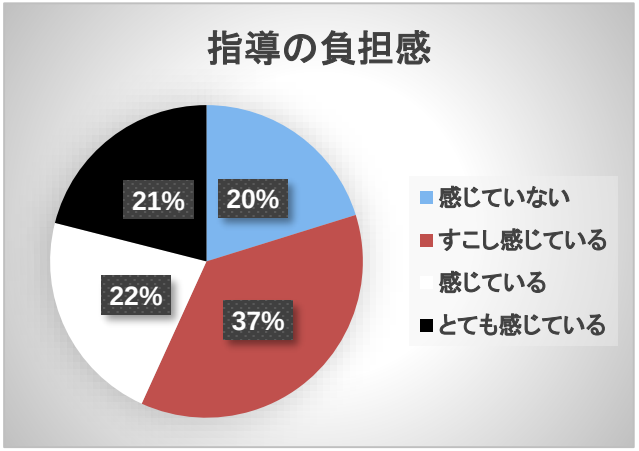
# 1(1) 部活動に関するアンケート調査結果(速報版)

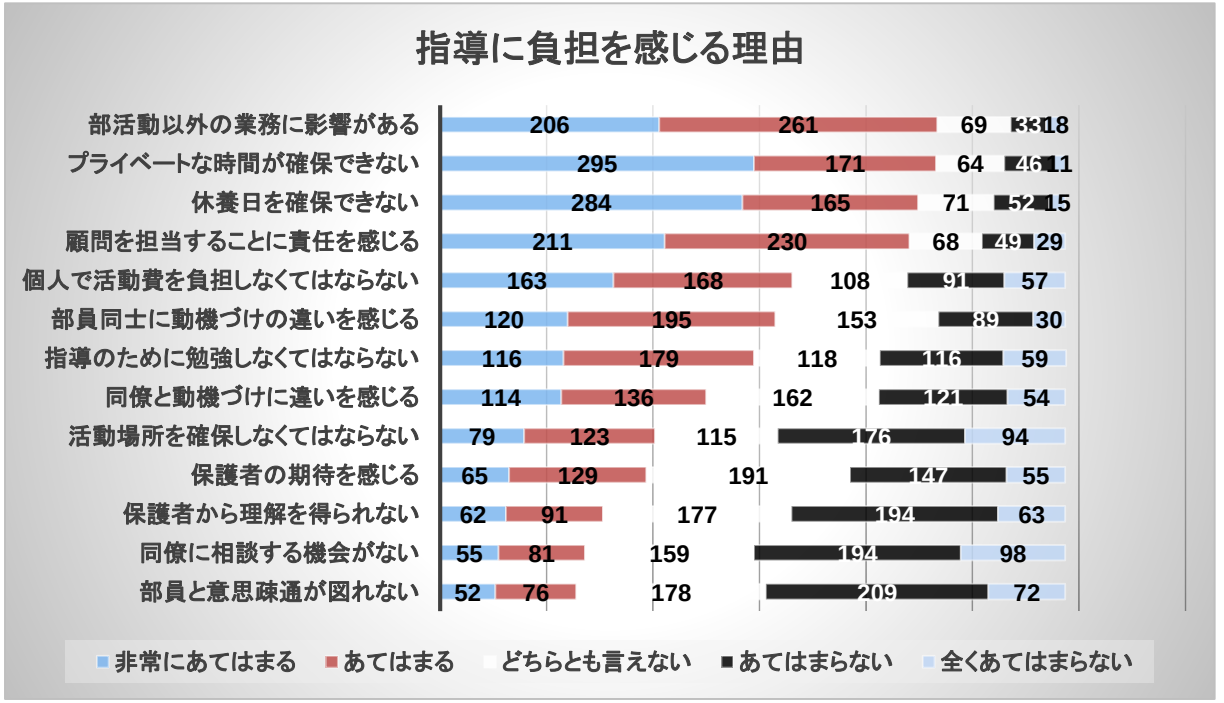


## 3 部活指導者の実態

### ➢ 指導の負担感

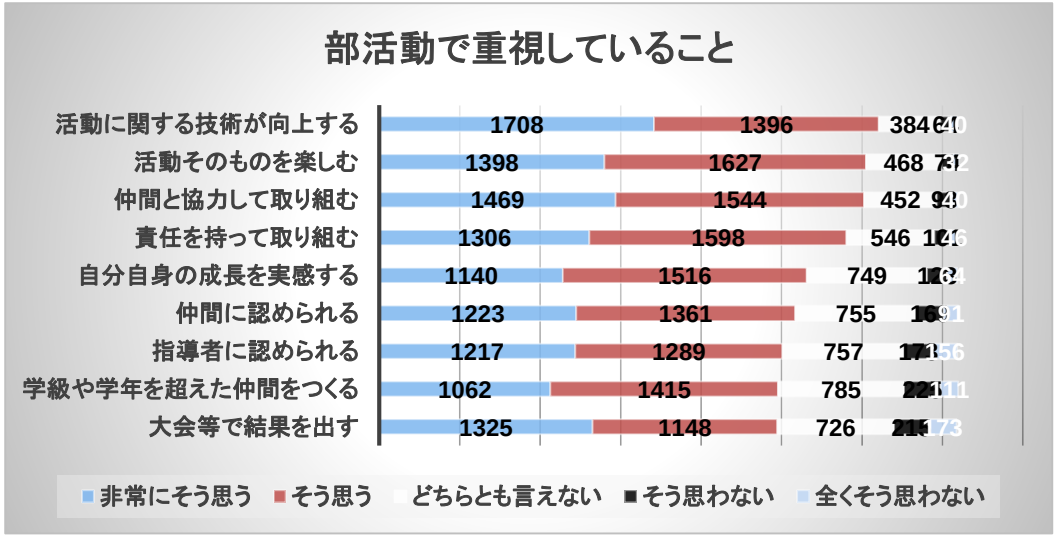
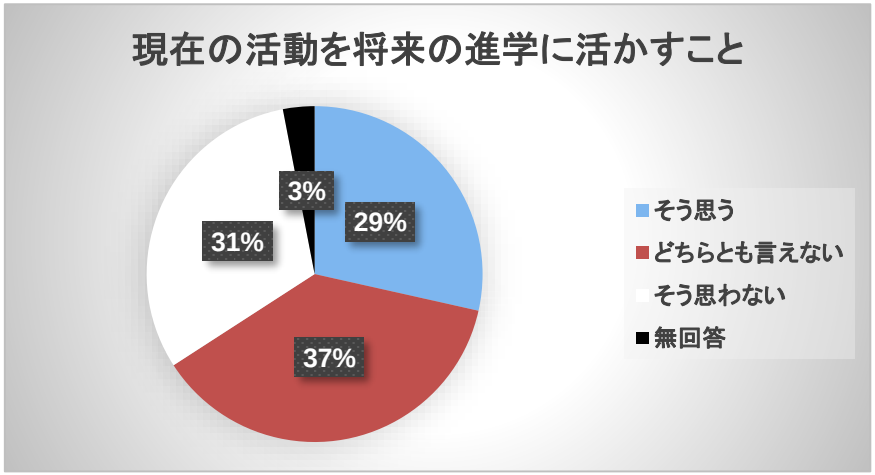
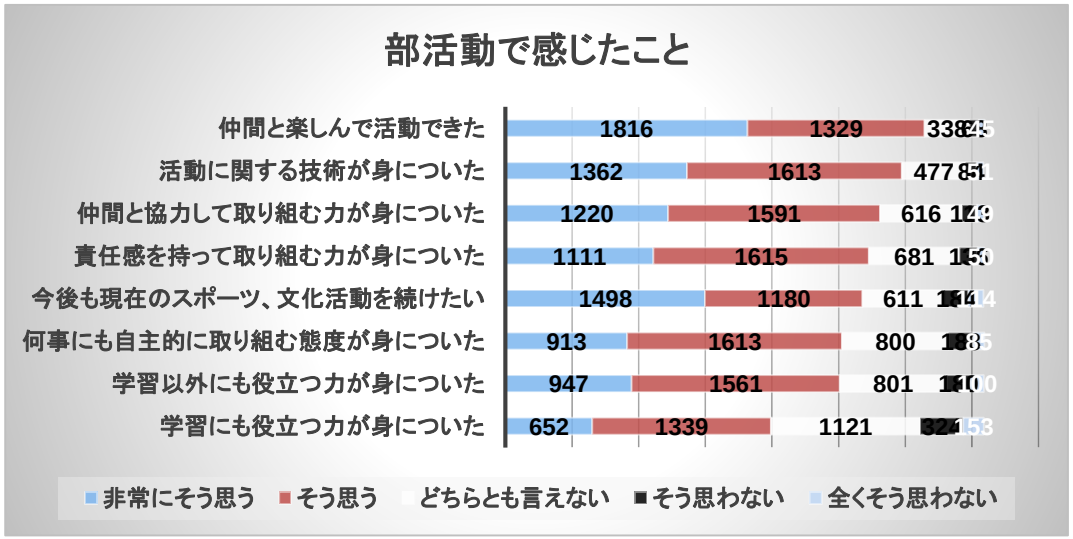
現在の活動に対して負担を感じてないのは全体の2割、残る8割は何らかの負担を感じている。とくに大きな負担を感じる層は2割いる。部活動以外の業務への影響を気にする声のほか、仕事以外の時間が確保できないことや、指導に必要な準備を負担に感じている様子が見える。



# 1(1) 部活動に関するアンケート調査結果(速報版)

## 4 生徒の実態

### ➢ 活動に対する思い

部活動による技術の向上や仲間づくりや活動を楽しみたいという部活動に対する価値観に対し、多くの生徒が肯定的であることが分かる。
現在の活動に対して高い評価をしている。また3割の生徒は将来の進学に活かしたいと考えている。